

米国・犯罪報道被害者遺族から学ぶ

日米の犯罪被害者遺族と死刑

日時：2010年6月29日（火）正午～午後8時

場所：同志社大学今出川校地・寒梅館ハーディーホール

愛する肉親を失った「米国・人権のための殺人事件被害者遺族の会」の人々は、どのようにいのちと向き合い生きてきたのか。その置かれた実情や多様な心情、時間とともに変わるもの、変わらないものは何か。元死刑囚・免田栄さんや東海テレビ・斎藤潤一さんらを招き死刑について考える、三部構成のシンポジウムです。

第Ⅰ部 正午～

風間トシさん（米在住カメラマン）
講演「台湾の死刑制度」（スライド上映）

第Ⅱ部 午後2時～

「米被害者遺族の会」会員5名の報告

第Ⅲ部 午後5時15分～

東海テレビ番組「罪と罰」上映&討論
斎藤潤一・同局ディレクター
免田栄さん（元死刑囚、免田事件冤罪被害者）



事前連絡不要・無料

主催：6.29MVFHR シンポジウム実行委員会

連絡先：同志社大学社会学部メディア学科・浅野健一研究室

電話 075-251-3457 ファクス 251-3066（供用）メール asanokenichi@nifty.com

担当：松下桜子（メディア学科3回生）

スピーカー・パネリスト（敬称略）

〔「米被害者遺族の会」来日メンバー〕



◆ **ジーン・ビショップ**：妹とその夫を殺害される。妹は殺害当時妊娠しており、お腹の胎児も殺される。ノースウェスタン大学教授、公設弁護士。



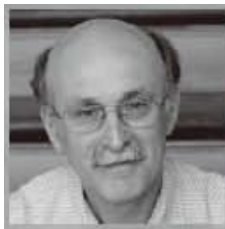
◆ **レニー・クッシング**：ニューハンプシャー州議会下院議員。父親を殺人で失う。「人権のための殺人被害者遺族の会」事務局長。



◆ **ロバート・カーリー**：10歳の息子を誘拐・性的虐待のうえ殺される。事件を機に死刑廃止州のマサチューセッツ州では死刑復活の動きが起こり、自身も死刑復活を求めて活動。しかし、後に考えを変え、死刑復活に反対の立場で証言するに至り、同州は死刑廃止を維持した。



◆ **バド・ウェルチ**：娘を連邦政府ビル爆破事件で殺される。犯人の父親と妹に会い、被害者遺族と加害者家族とが出会う事の大切さを感じる。



◆ **ロバート・ミーロポール**：6歳のとき、両親（ローゼンバーグ夫妻）をスパイ容疑の疑いで処刑される。その後、孤児の為の基金の会「ローゼンバーグ基金」を設立。両親はえん罪の可能性が高いといわれる。弁護士。

◆コーディネーター：トシ風間（在米写真家）

15歳で渡米。1996年から少年死刑囚の撮影を開始。以降、米国・台湾の少年死刑囚を撮影してきた経験をもとに、米国・日本・中国・台湾など各地で公演活動を行う。「人権のための殺人被害者遺族の会」理事、「Ocean・被害者と加害者の出会いを考える会」(日本)運営委員。



◆免田栄（免田事件元死刑囚）

免田事件は死刑囚の再審無罪が初めて認められた冤罪事件。1948年末、熊本県人吉市で祈祷(きとう)師一家4人が殺傷される事件が起こり、別件で逮捕された同県免田町(現・あさぎり町)の免田栄さんが取り調べで犯行を「自白」。公判ではアリバイを主張して否認したが、51年に最高裁で死刑が確定。第6次再審請求で再審が決定し、83年に無罪判決が言い渡された。



東海テレビ・ドキュメンタリー番組「罪と罰」

犯罪被害者の遺族と死刑について取り上げた番組。3人の被害者遺族をドキュメントしている。娘を奪われた母、弟を失った兄、息子を殺された父。3人の被害者遺族の気持ちは、全く同じものではない。それぞれの想いに迫った番組である。

<会場>同志社大学今出川校地寒梅館ハーディーホール
アクセス：京都市市営地下鉄烏丸線今出川駅下車徒歩1分